ミハイル・カンディンスキー

ピアノリサイタルとロシアの鐘のお話

このような時だからこそ、日本に居るロシア人ピアニストとして
ロシア文化を一層大切にしたく、祈りの気持ちを込めて弾きます。
Mikhail Kandinsky

14:00〜14:20 ロシアの鐘のお話
14:20〜15:50 ピアノリサイタル

ベートーヴェン
ピアノソナタ第7番 二長調 op.10-3

メトネル
おとぎ話 "鐘のうた" op.20-2

グリーグ
抒情小品集 op.54より
1.羊飼いの少年 2. 農民の行進 3. トロルの行進
4. 夜想曲 5. スケルツォ 6. 鐘の音

ラフマニノフ
6つの音の絵 op.33

※ 曲目は変更になる場合がございます。

2023年
10月7日 土
14:00 開演 （13:30 開場）

市川市文化会館
小ホール
千葉県市川市大和田1-1-5

会場地図

©中村義政

主催 津田塾大学同窓会千葉支部 津田塾大学同窓会助成事業

問い合わせ
申し込み

津田塾大学同窓会千葉支部
tsudaogchiba@gmail.com
アトリエ·カンディンスキー
lily.kandinsky@gmail.com

参加費 全席自由
一般 4,000円
津田塾関係者
(同窓生·学生·教職員)
3,000円

予約フォーム

昨年はZoom講演会でウクライナの現場の声をお届けいたしました。
世界が分断される中、今年はロシアの鐘の音や音楽を通して平和を願う気持ちを
お伝えしたいと思います。千葉支部では収益を国連UNHCR協会に寄付しております。

後援
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）

「ロシアの鐘の音」リサイタルに寄せて（文: ミハイル・カンディンスキー）

ベートーヴェンの明るいニ長調ソナタとロシア音楽の共通点は、ロシア音楽に大切な「道のイメージ」が第1楽章に顕れ、道は人生の進路のよう。精神的エネルギーが感じられます。メトネルとラフマニノフは親友で、お互いに尊敬しあいました。今回は鐘に因んだ『スカースカ』を(おとぎ話や短編・小説の意)。そして今年はラフマニノフ生誕150年、グリーグの生誕180年でもあり、ノルウェーのグリーグの小品集を弾きます。短い中に広がる豊かなイメージは日本の俳句のようで、日本の方々にとても良いと思いますがいかがでしょうか? グリーグの書いた『鐘の音』は、ロシアの鐘よりシンプルで透明感があります。複数の和音が混ざる味わいはロシアと似ており、ぜひ聴き比べてください。ラフマニノフの『音の絵』op.33-3は、神秘的な暗い吹雪のようです。私は雪がとても懐かしく、心暖かく感じ、毎春日本で桜を見ると、雪を思い出すのです。

ロシアの自然

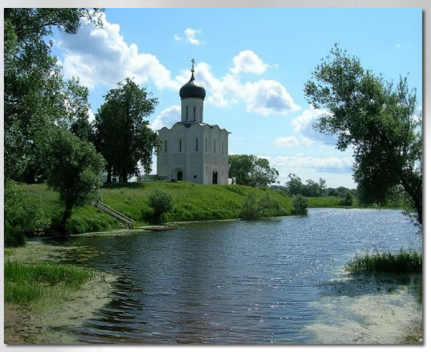
音楽は、それが生まれ出た母国の自然や風景と切り離すことはできません。ロシアの自然は山がなく、殆どが一面の平野です。そこに人々の憧れる川が、森や平原を迂回してどこまでも流れてゆきます。それがロシア人の心の風景であり、ラフマニノフの広い呼吸のメロディ、大地のように広い和音は、ここから表れ出ています。

ロシアの鐘

もう一つ、ロシア音楽の生命として大切な特徴は鐘です。鐘は人の様にさえ思われてきました。昔ながらの鐘の音が、ロシア音楽芸術の源です。鐘の役割は様々なものがあり、例えば祭りや喜びの鐘の音、結婚の鐘の音(今回弾くラフマニノフの『音の絵』op.33-4の様に)、または悲劇的な鐘の音、弔いの鐘の音、そして警鐘を鳴らす鐘の音(今回弾くメトネルの『おとぎ話』op.20-2の様に)。警鐘を鳴らすのは、火事などは勿論、タタールや隣国の兵隊が入って来た時などもそうで、今回メトネルの曲で鐘が危険や恐れを告げ、人々の集まる様子も感じられます。

ロシア正教の鐘と歌

教会の隣に立つ高い鐘楼で、特別技術をもつ者が一人で大小複数の鐘を長くも短くも操り鳴らします。祈祷の開始や祈祷中の大切な時に鳴らし、神聖な精神を垂れ広めた鐘の音。正教会の典礼では、器楽は使われず、人声の歌のみで、そこに唯一あるのが鐘でした。声楽曲もラフマニノフの傑作『晩祷』op.37を筆頭に、鐘の響きの影響は甚大です。そして鐘と歌は、ピアノやどの器楽曲にも、ある時ははっきりと、ある時は気づかないくらい細部まで、浸透しました。街の教会によりそれぞれ独自の音色やメロディ、リズムをもった鐘が今日も鳴っています。



ミハイル・カンディンスキーMikhail Kandinsky （ピアノ）

1973年モスクワ生まれ。グネーシンを経て1996年モスクワ音楽院を首席卒業、1998年英国王立音楽院大学院修了。ウィンゲート賞受賞。E.ヴィルサラーゼ、H.ミルン、W.トロップ他の各氏に師事。1991年プロコフィエフのピアノ協奏曲でデビュー、1998年から来日までモスクワ・フィルハーモニー協会アーティスト。メトネルの関連では、モスクワ音楽院時代に出演したメトネル音楽祭(モスクワ）で同じ舞台に立ったヘーミッシュ・ミルン氏に憧れ、師事するために英国アカデミー財団の全額特待生となりロンドンへ渡った。2001年来日以降、サントリーホール、紀尾井ホール等でのリサイタル、ウィーン・フィルやN響メンバーとの共演、震災チャリティコンサート、近年はショパン・コンサート(ワルシャワ)、グリンシュタイン・イェフィモフ世界初演リサイタル(東京文化会館)、カンディンスキー展オープニングコンサート（カリニングラード）、自作初演リサイタル(モスクワ）等好評を博す。
現在CDはソロで8枚リリース、朝日新聞・レコード芸術・音楽現代等各誌にて高評を得、You Tubeでは100曲以上の音源をアップ中。ライフワークはロシア音楽の普及紹介や、眠れる佳曲に光を当てることに努めている。洗足学園音楽大学非常勤講師、上野学園音楽学部客員教授、東京ピアノコンクール、ショパン国際コンクール in Asia、日本室内楽ピアノコンクール他各審査員。PTNA正会員。趣味は自然散策、チェス、日本庭園・薪能鑑賞。
大画家W.カンディンスキーを輩出したロシア家系に当たる。
https://www.mkandinsky.com/